
綺麗

Risha

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

綺麗

【Nコード】

N7086R

【作者名】

R i s h a

【あらすじ】

ある女の知られざる物語

突然目が覚める。

また朝が来てしまったようだ。いつもこうだ。天井が無表情に目に映る。もう一度目を瞑ってみる。すると目の外側を眩しい光が照らしているのが分かる。さて、どうしていつも同じように朝が来てしまふのだろう。目が覚める度に後悔しているのに……。

そう、それはまるで義務のように一日が始まる。目覚めたくないと思っけていても、朝は素直にやってくる。寝ている間は何もかも忘れていられるが、ひとたび目を開ければ、すべての記憶が瞬時に戻ってくるから不思議である。

自分の身体をあちこち叩きながら無理やり起こす。意識とは無関係に時間はやってくるからである。

頭ではなにも考えていなくても、身体は勝手に支度を進めていた。私に似合わず、私の手が行う化粧はテキパキとして細かい。支度が終わり玄関の扉を開けると、外の眩しさに煙たい顔になる。鍵を閉め歩き出す。

鞆から地図を取り出すと、赤い丸印が付いている。そこはここからそれほど離れていない場所だ。電車に乗ればすぐに着く。駅からも割と近い。明るい日差しの中、目を細めて歩いてゆく。

そこは駅から近い静かな小さいアパートだった。地図には手書きで301と書いてある。地図の余白には活字で、錆びた階段を上った。

「ピンポン」

チャイムを鳴らすと足音が聞こえすぐに扉が開いた。

「あ、どうも！初めまして。どうぞどうぞ。」

「初めまして。お邪魔します。」

その男は少しぽっちゃりとしていて、明るく人の良さそうな顔をしていた。年齢は三十代半ばであろうか。

「外は寒く無かったですか？温まってくださいね。コーヒー入れます！」

「大丈夫ですよ。お構いなく。」

「いいんですよ！これくらいさせてください。……にしても、びっくりしたなあ。あなたみたいにすごく綺麗な人が来るとはねー。いやー、参った。」

そう言って男は照れくさそうに笑っていた。

「はい。これどうぞ。」

「どうも、ありがとうございます。」

「いえいえ。でも本当にいいんですか？」

「ええ、もちろん。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7086r/>

綺麗

2011年10月8日22時16分発行